

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年10月4日(2007.10.4)

【公開番号】特開2007-23154(P2007-23154A)

【公開日】平成19年2月1日(2007.2.1)

【年通号数】公開・登録公報2007-004

【出願番号】特願2005-207071(P2005-207071)

【国際特許分類】

C 08 F 6/12 (2006.01)

C 08 F 10/00 (2006.01)

【F I】

C 08 F 6/12

C 08 F 10/00 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月17日(2007.8.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下の要件(1)～(5)を同時に満たすことを特徴とするオレフィン系重合体粒子。

(1) GPCで測定した分子量分布(Mw/Mn)が4.0以下であること、

(2) 重合体粒子の最小粒径が3μm以上であり、平均粒径が20μm以上であること、

(3) 重合体粒子の灰分が2000重量ppm以下であること、

(4) 重合体粒子のSi含量が10重量ppm以下であること、

(5) 重合体粒子が、アルミノキサンと下記一般式[I]で表わされるジオール化合物との接触物を含むこと。

H - O - R¹ - O - H ... [I]

(上記一般式[I]において、R¹は炭素数1～20のアルキレン基であり、炭素と結合する一つ以上の水素原子が、アリール基、ハロゲン原子、ハロゲン含有炭化水素基またはアシル基で置換されていてもよい。)

【請求項2】

プロピレンから得られる重合体粒子であって、室温でのn-デカン可溶成分が2wt%以下であることを特徴とする請求項1に記載のオレフィン系重合体粒子。

【請求項3】

以下の工程1を含み、請求項1または2に記載のオレフィン系重合体粒子を製造することを特徴とするオレフィン系重合体粒子の製造方法；

[工程1]：遷移金属化合物(A)および、

アルミノキサン(B)と下記一般式[I]で表わされるジオール化合物(C)との接触物、

を含むオレフィン重合触媒の存在下で、エチレンと炭素数3以上の-オレフィンから選ばれる一種以上のオレフィンを重合する工程。

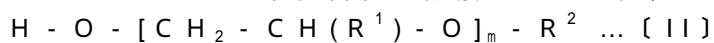
H - O - R¹ - O - H ... [I]

(上記一般式[I]において、R¹は炭素数1～20のアルキレン基であり、炭素と結合する一つ以上の水素原子が、アリール基、ハロゲン原子、ハロゲン含有炭化水素基またはアシル基で置換されていてもよい。)

【請求項 4】

前記工程 1 に次いで、以下の工程 2 および工程 3 を順次実施することを特徴とする請求項 3 に記載のオレフィン系重合体粒子の製造方法；

[工程 2]：下記一般式〔II〕で表される、分子内に1個のアルコール性水酸基を持つポリオキシアルキレン系化合物を接触させる工程、



(上記一般式〔II〕において、 R^1 および R^2 は、炭素数 1 ~ 20 のアルキル基、炭素数 6 ~ 20 のアリール基および炭素数 1 ~ 20 のアシル基から選ばれ、相互に同一でも異なっていてもよい。 m は平均繰り返し単位数を表わし、1 ~ 100 の範囲である。)

[工程 3]：炭素数 5 ~ 10 の脂肪族炭化水素を接触させた後、液相部を除去してオレフィン系重合体粒子部を回収する工程。

【請求項 5】

前記工程 1 に次いで、以下の工程 2' および工程 3' を順次実施することを特徴とする請求項 3 に記載のオレフィン系重合体粒子の製造方法；

[工程 2']：炭素数 5 ~ 10 の脂肪族炭化水素に溶解させる工程、

[工程 3']：酸性アルコールと接触させてポリマーを析出させ、オレフィン系重合体粒子部を回収する工程。